

こども・若者 Vol.4

ミライNEWS



こども・若者のミライにつながる条例をみんなで考える部会

川西市は、こどもが笑顔になる、こどもが幸せになるために、こどもたちが自分の考えや意見を表明できる機会を保障するため、「(仮称)こども参加条例」の制定をめざしています。
大人だけで考えてつくるのではなく、当事者であるこども・若者が自分たちの意見を伝えながら、まちづくりに参加する権利を保障するためのルールについての話し合いを通じて、より良い条例づくりを進めています。

9月14日(土)に第4回を開催!

こども・若者の「意見を伝えるとき、おとなやまわりの人に大切にしてほしいこと」を条例の前文にこめました



第4回では、約30人のこども・若者が参加しました。

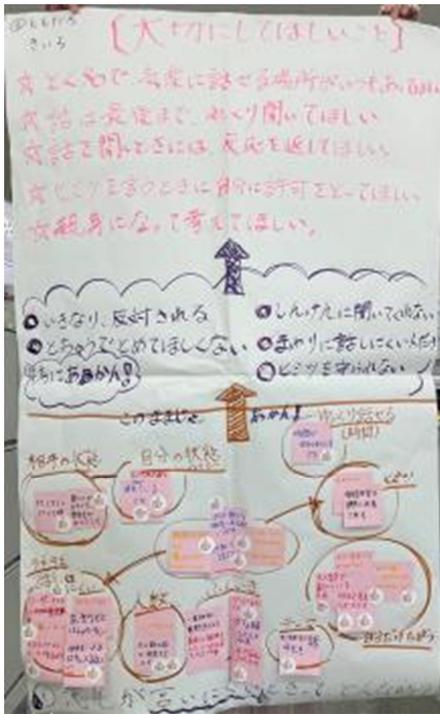
まずはおひさしぶりタイムということで、おなじみのアイスブレイク。いまの気分や今年の夏の思い出をテーマにグループメンバーで自己紹介をしました。

グループワークを始めるにあたって、まずはこども・若者のみなさんからもらった意見やアンケート、ヒアリング調査などを基に(仮称)こども参加条例検討部会で作成を進めている条例(案)の中身について、どんな内容で考えているかを伝えました。「条例とは?」というところからはじまり、何を狙っているのかや「こども・若者の意見を言う権利」、「市の責務」など特に重要なポイントを中心に共有しました。

「条例の前文」とは、条例の精神をあらわすもの。条例の土台となるような、考え方やめざす姿などが書かれているよ。



「おとなやまわりの人に大切にしてほしいこと」は？



今回は(仮称)子ども参加条例の前文にのせることも、若者の想いについて話し合いました。

第2回の「意見を言いやすいとき、言いにくいときはどんなとき？」から発展して、「おとなやまわりの人に大切にしてほしいこと」について意見を出し合い、「話を最後まできいてほしい」「否定せず、ひとつの意見として受けとめてほしい」など実体験を基に、意見をいうときに自分たちが大切にしてほしいと思うことを整理し、グループ毎に発表をしました。



意見を言いにくいとき

・むずかしいテーマのとき

・話を途中でとめられるとき

・ひみつが守られないとき

・自分の意見に自信がないとき

・自分の意見が明らかにみんなとは違うとき

・味方がいなくて怖いと思うとき

大切にしてほしいこと

・テーマを分かりやすくしたり、間違っても良い雰囲気にしてほしい

・話は最後までゆっくりきいてほしい

・話したことをむやみに人に言わないでほしい

・自分の意見を1つの意見として受けとめてほしい

・少数の意見もしっかりときいてほしい

子ども・若者の想いを受けて

子ども・若者たちからの想いを受け、「こっしー」こと越田市長からは、「受け取った想いを条例に反映させる」と返事をして、「まちづくりに子ども・若者が積極的なまちにしていくためにも、今回話し合ったことを覚えていてほしい」と子ども・若者へメッセージを送りました。

